

インターロッキングブロック舗装 Technical Report － 試験方法 編 － (その10)

Vol.81

1. 敷砂の細粒化に対する抵抗性試験方法(JIPEA-TM-2)

(1) 試験器具

- ① 75 μ mふるい
- ② 直径15cm,容積2,209cm³のCBR試験用モールド(JIS A1211)
- ③ 4.5kgランマー
- ④ 乾燥機
- ⑤ 0.1gまで測定できるはかり

(2) 試験方法

- ① 代表的な試料を採取し(乾燥後の質量が6kg程度となる量)、乾燥機にて絶乾状態にします。
- ② 試料の微粉分量をJIS A1103(骨材の微粉分量試験方法)により測定します。
- ③ CBR試験用モールド容積の3分の1試料を投入します。
- ④ 4.5kgランマーを落下高さ45cmから自由落下させ試料を突き固めます。この時の突き固め回数は、交通区分IL3に適用する敷砂では67回、交通区分IL4,IL5に適用する敷砂では300回とします。
- ⑤ モールドから試料を取り出し、その試料の微粉分量をJIS A1103(骨材の微粉分量試験方法)により測定します。
- ⑥ ③～⑤までの試験を2回行い、その平均値(A2)を求めます。

(3) 微粉分量の増加量の計算

微粉分量の増加量を(1)式において計算し、有効数字2桁に丸めます。

$$A_s = A_2 - A_1 \dots\dots (1)$$

ここに、A1：突き固め前の微粉分量(%)
A2：突き固め後の微粉分量(%)
As：微粉分量の増加量(%)

以上